

(世界大会のよびかけ 最終版訳)

世界大会 — 核兵器廃絶、気候の危機の阻止と反転、社会的経済的正義のために

2020年4月24日-26日、開催地：ニューヨーク市

人類は、存亡にかかわるふたつの脅威 — 増大する核戦争の危険と気候の崩壊とに直面しています。これらの脅威は人間が生んだものであり、ただ多数の人々の行動によってのみ押し戻すことができます。

2020年は、いま人類の生存を脅かしている核の時代の始まり — 広島、長崎への米国の原爆投下から75年の節目となります。それは核兵器を廃絶し、核のない世界を創造する国際的努力と運動の誕生をも記念するものでもあります。また、2020年はヨーロッパとアジアにおける第二次世界大戦の終結と国連創立の75周年、リオ地球サミット宣言に続く気候変動枠組条約会議 (COP) の25周年でもあり、4月から5月には第10回NPT (核不拡散条約) 再検討会議が国連本部で開催されます。

毎年、原爆投下の日に日本で原水爆禁止世界大会を開催するパートナーのみなさんに励まされ、「平和と地球」ネットワークと国際平和ビューローは、核兵器廃絶のためのグローバルネットワーク「廃絶2000」の支持を受けて、2020年NPT再検討会議の前夜、ニューヨークで世界大会と関連諸行事を企画することを呼びかけました。これらの催しは、潘基文国連事務総長(当時)、軍縮問題担当国連上級代表、被ばく者(原爆投下と核実験の犠牲者)、軍縮運動の指導者などによるよびかけ、世界から集まった何千人もの活動家が参加する集会、宗派を超えた祈り、そして全体の頂点となった全世界の核軍備の完全廃絶を求める幾百万の署名の国連提出など、2010年と2015年のニューヨークでの会議と動員とを受け継ぐものです。

私たちがめざすものは、核戦争を阻止し、核兵器の全面禁止・廃絶を達成し、世界の被爆者の援護と連帯のために活動することであり、軍縮を推進し、気候の危機を止め、押し戻し、社会的経済的公正をはかり、私たちが実現する必要がある横断的運動を創ることです。軍縮はさまざまな企画の重要テーマであり、「戦争ノー」は私たちの行動の全般的基礎です。

大会を組織する上で私たちは、核兵器廃絶、平和、正義、環境の諸分野の運動、そして核兵器のない世界と持続可能な環境を実現するために積極的かつ実質的に寄与している諸国の外交官や政治家の、可能な限り広範な参加を追求します。

危険と機会

世界大会は、人々の運動とそれに共感を持つ各国政府に警鐘を鳴らし、強権的、軍国主義的、独裁的政府に助長された、核戦争、気候の危機、人種主義、弾圧、不平等などの増大する危険が創り出す課題に立ち向かうよう励ますタイムリーな機会を提供します。人種主義やその他の形で憎しみ、強まる経済的不平等が、一部では強権的政府の台頭により推し進められ、全世界で人々の命と希望を切り捨てています。平和と民主主義のたたかいは表裏一体のものです。会議はまた、横断的で青年が先頭に立つ運動を発展させるまたとない機会を創り出します。

2020年NPT再検討会議の成功は挑戦の課題です。核武装国はみずからが負う第6条の義務を果たすことに抵抗しており、際限のない新たな核軍備競争に発展する危険のなかで、どの国も人類絶滅の核軍備をさらに強化しています。計画の中には新たな地上発射核兵器の欧州配備も含まれています。そして核兵器の拡散（おそらく、サウジアラビア、ブラジルなどの国による）はNPTの生命力をさらに蝕んでいます。

気候変動に関するパリ協定を含め、強力な民衆の運動や地方自治体、州、各国政府の取り組みは、強まる気候破壊の危険に対する回答となってきました。しかし、地球の気温と海面は上昇し続けています。気候の危機はすでに人間の命と福利に重大な被害を及ぼしはじめています。巨大なハリケーンやサイクロン、洪水、飢饉、海面上昇が人の命を奪い、地域社会を破壊し、人々を飢餓と家屋の喪失に陥れ、命がけの大量移住の火に油を注ぎ、それが軍事紛争を悪化させています。加えて、最近ユネスコの地球評価研究が報じたように、生物多様性の破壊により4つに1つの生物種が絶滅の危機に瀕しており、人の命が依存する生態系が脅かされています。

2020年に発効が期待される核兵器禁止条約は希望の光であり、世界の多くの非核国にとって優先課題となっています。2020年NPT再検討会議の期間中、広島・長崎の被爆75年の前夜に、核の危険と戦争の危険の高まりのなかで開催される世界大会は、被爆者の経験を国際的な注目の中心に据える最後にして最大の機会の一つとなるでしょう。それは、「人類と核兵器は共存できない」という被爆者が掲げ続けている警告に光を当て、1955年のラッセル・アインシュタイン宣言のあの先駆的な「あなたの人間性を思い起し、他のすべてを忘却せよ」との第一義的指針を想起する重要な機会となるでしょう。

世界大会は、世界の核兵器廃絶キャンペーン、連携する運動諸団体、核兵器の禁止・廃絶に取り組んでいる外交官などにとって、再検討会議にむかって私たちの廃絶の声を響かせるまたとない機会となるでしょう。気候問題や社会的経済的正義の運動と結びつけることは、私たちが実現すべき協力関係や諸分野の横断的運動を発展させる新たな機会を提供するでしょう。

私たちは以下のイベントを構想しています。

- ー 原水爆禁止世界大会をマンハッタンの適切な会場で行う

- ー 集会および国連ないしダグ・ハマーショルド広場への行進
- ー 核兵器の禁止廃絶を緊急に要求する数百万のヒバクシャ署名およびその他の署名のNPT再検討会議への提出
- ー 国際的かつ多宗派の宗教的儀式
- ー 軍縮、平和、正義、環境のフェスティバル
- ー 自主企画の青年イベント（複数）

私たちはニューヨークへの可能な限り広範な国際的結集と参加を追求しますが、多くの人が国際的な旅行をできるわけでないことを承知しています。従って、他の国々のパートナー団体が並行して行事を開催することを歓迎します。

2019年9月

デイビッド・アンダーソン
プレセンサニューヨーク支局
(アメリカ)

オレグ・ボドロフ
フィンランド湾南岸公共評議会
(ロシア)

ライナー・ブラウン
国際平和ビューロー
(ドイツ)

シャラン・バロー
国際労働組合総連合
(オーストラリア)

ジャッキー・カバツ
西部諸州法律基金
(アメリカ)

リース・シェノールト
アメリカ反戦労働組合
(アメリカ)

ノーム・チョムスキー
学者
(アメリカ)

リサ・クラーク
国際平和ビューロー
(イタリア)

コラソン・ファブロス
非核フィリピン連合
(フィリピン)

ジョゼフ・ガーソン
アメリカフレンズ奉仕委員会
平和軍縮共通安全保障キャンペーン
(アメリカ)

チャック・ジョンソン
核戦争防止国際医師会議
(アメリカ)

川野浩一
原水禁
(日本)

ピーター・ノウルトン、カール・ローゼン
全米電気機械無線労働組合

パブロ・ラーダ
チュブ反核運動

(アメリカ)

ケビン・マーティン
ピースアクション
(アメリカ)

田中熙巳
日本被団協
(日本)

核軍縮キャンペーン (イギリス)

フランス平和運動 (フランス)

アルゼンチン共和国反核運動 (MARA)

(アルゼンチン)

高草木博
原水協
(日本)

アチン・バナイク
核軍縮平和連合
(インド)